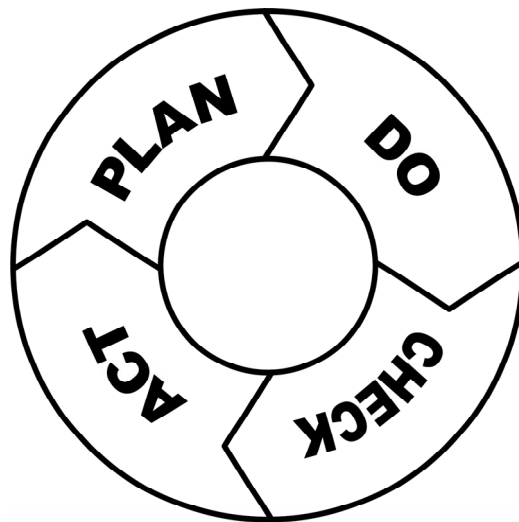


令和4年度前期


授業に関する自己点検評価シート



令和5(2023)年5月

函館大谷短期大学 F D 委員会



令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	経済学入門	
講義区分・開講期	講義	前期
担当者名	伊藤 好一	
PLAN 目標の設定 授業の方法 	<p>本講義では、様々な経済理論の要点、ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎知識、地域経済を理解するときに重要となる議論およびその事例について説明し、経済学の基礎的な理解を深めつつ地域経済の今後に対し学生たちが自分なりの考えをもつことを目指す。主にパワーポイントと配布資料を用いた講義形式で行う。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 	<p>経済学の各流派の全体像を示し、自分たちがどのような経済理論を学んでいるのかを常に意識できるような講義を行った。そして、各理論の特徴を時代背景と共に紹介し、なるべく理解しやすいように説明した。毎回の講義を様々な〈問い〉からはじめ、講義が終わるたびに学生たちが〈答え〉を得ていくような流れを意識して講義を構成、展開した。学生たちが学習内容に対して主体的に向き合える環境を整えるため、毎回の講義でリアクションペーパーを配布し意見や質問を集め次回の講義で欠かさずに回答するように努めた。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート 	<p>多くの項目で4以上と概ね良好な評価を得たと思われるが、「到達目標の達成」の3.75、「予習・復習の週平均時間」の1.53の2項目については検討する必要があることを確認できた。「到達目標の達成」では、昨年度は3.31であり、若干の改善がみられる。これは、講義全体だけではなく各講義のはじめに学ぶべきポイントを細かく説明したことが功を奏したものと考える。「予習・復習の週平均時間」では、昨年度の1.67から下降傾向にあり、より積極的な改善が必要であることが確認できた。また、「教材や機器の使用などの工夫」が4.72と最も高い（昨年度の4.59からも上昇している）が、自由記述の感想から、配布資料の構成や見やすさが評価されたものと考えられる。「総合的な満足度」は4.32だが、今後もより高い評価を得られるように努めたい。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>「到達目標の達成」については引き続き学ぶべきポイントなどの説明を細やかに行うとともに適宜イラスト等も活用し、より学生たちの理解が促せるような工夫にも取り組んでいくこととする。「予習・復習の週平均時間」については、より具体的な予習・復習の指示を出し、次回講義時に振り返りを行う時間を設ける。</p>	




令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	キャリアデザインA	
講義区分・開講期	演習	前期
担当者名	濱嶋幸司	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	<p>本講義では、生涯にわたるキャリアを広く学ぶことを目的とする。具体的には、卒業後の進路を考えるにあたって自分自身を知り、職業適性を知ることの必要性を学んでいく。そのためにも自分はどうのように働き、どのように生きるか考える力が必要になり、知識と技術を習得する。講義形式を中心におこなう。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	<p>履修者へは各回資料を配布する。また、能動的な学修を促す工夫（グループワークなど）も用意する。授業内容を理解するために適宜、振り返りの課題を実施する。</p> <p>以下の到達目標を重視した授業を実施する。</p> <p>① 長い人生におけるキャリアの必要性、意味について理解する。</p> <p>② 自己分析、職業適性を理解し、自分の将来のビジョンを用意する。</p> <p>③ 採用活動および卒業後の職業生活（会社・職場の仕組み、社会のルール、礼儀作法）を知る。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	<p>新型コロナウイルスによる危機状況も3年目となった。一斉休講等の不安はあったもののシラバスに記載した各回（全15回）の授業は予定通り、実施できている。何名かの学生はコロナ陽性・濃厚接触者ということで欠席した。授業評価アンケートの有効回答は23名（前年は26名）であった。残念ながら1名の退学があった。「英会話A」の授業後という時間割も功を奏したのか、出席率はとてもよかった。総合的な満足度は4.82（前年は4.58、ちなみに前々年は4.52）となっており、概ねキャリアの重要性は理解されているのではないかと思う。</p> <p>予習・復習の週平均時間が少ないが本時間冒頭に基礎学力向上時事問題（全10回）を実施しており、そこに向けた予習を促してはいた。予習の習慣がついたと思われる。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>昨年度は受講態度に問題のある学生が見られた、今年度の履修学生は態度に概ね問題は感じられなかった。本科目は1年生の必修科目でもあり、今後の就職活動（履歴書作成、企業エントリー、面接）と関わる科目である。就職活動は早期化している。短大生の就職実績は学外への評価とも直結するので、例年同様、意欲の向上と適切な技能習得を促すようにしていきたい。</p>	

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	社会心理学	
講義区分・開講期	講義	前期
担当者名	濱嶋幸司	
PLAN 目標の設定 授業の方法 	<p>本講義では、社会心理学のこれまでの研究成果を紹介し、履修者に多様な価値観、思考枠組を提供することを目的とする。具体的には、社会の中で形成される個人の心理とはどういうものか、自我や自己はどうやってつくられていくのか、言い換えれば社会を学習していくのかを事例を用いながら説明する。自分のこれまでの生活を振り返り、視野を広げ、今後に関与する機会としたい。講義形式を中心におこなう。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 	<p>履修者へは各回資料を配布する。また、能動的な学修を促す工夫（グループワークなど）も用意する。授業内容を理解するために適宜、振り返りの課題を実施する。</p> <p>以下の到達目標を重視した授業を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会心理学の基礎的な考え方を身につけることができる。 ② 身近な社会現象、心理現象について社会心理学を用いて説明することができる。 ③ 社会心理学の思考を日常生活に応用し、困難なことが生じても向き合っていくことができる。 	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート 	<p>新型コロナウイルスによる危機状況も3年目となった。不安はあったものの幸運にもシラバスに記載した各回（全15回）の授業は予定通り、実施できている。何名かの学生はコロナ陽性・濃厚接触者ということで欠席した。グループワークなど授業内に少人数で対話させる授業は残念ながら、今年もできなかった（なお、昨年度、授業内で簡単な心理実験をしたが不評であったため今年は講義中心に再編した）。</p> <p>授業評価アンケートの有効回答は16名であった（昨年度は25名）。総合的な満足度は4.75（昨年度は4.70、一昨年度4.53）となっており、高評価が続いている。</p> <p>昨年度の予習・復習の週平均時間が少ない（1.57）と記載したが、今年度は1.79と若干の上向きが見られた。憶測の域を出ないが、真面目に履修する学生が復習に時間を割いた可能性があり、平均を押し上げたのではないかと推察される。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>今年も大幅な遅刻・途中でトイレに駆け込む・居眠り・無断欠席が続出した。今年度も最終的に数名に成績不可をつけざるを得なかった。期末試験の結果も芳しくなく、やむを得ず再試の機会を用意したものの実際に受験に来た学生が1名だったというのも残念であった。受講態度および予習復習のできる学生となるよう受講時に促していく。</p>	




令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	現在韓国経済・文化論	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	金 美 敬	
PLAN 目標の設定 授業の方法 	韓国の文化や経済について、正しい知識を深めることを目的とする。また、韓国を訪れるにあたり、韓国人の考え方や韓国の歴史などもしっかりと知っておくことが必要となる。 授業の方法は、メディアなどを利用した講義式の授業を行う。学生には課題などを提示し、積極的に授業に参加させる。	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 	正しい韓国の文化・経済の知識を修得し、韓国旅行や研修に役に立つことを目指す。授業で学んだ知識や情報などを生かし、韓国旅行をグループごとに計画を立て、発表させる。相互情報交換にもなる。	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート 	課題を通して学習環境をもっと作ることが必要だと思う。また、グループを組んで、積極的に参加させることも必要だと思う。	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	予習や復習など、学習をするように、もっと学習環境を作る。特に、予習として、次回の講義の内容について調べさせることも必要になる。復習は、グループを組んで、積極的に参加させ、グループごとにも学習させることも考える。	

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	情報基礎演習 I	
講義区分・開講期	講義 ・ ✓演習	✓前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	三浦 久典	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	書類作成に用いられる Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint) を通して、レポート作成やデータ分析など実務的な操作、活用方法を習得するとともに、コンピュータの基本知識・情報モラルを習得することを目指す。	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	生徒の興味や理解度を確認しながら、優先すべき課題を勘案し授業毎にテキストを準備。実習を通して実務的な操作を実践。講師は見回りながら、生徒のサポートを行う。 理解の早い生徒、興味のある生徒は応用した技術を習得できるよう、応用課題を準備し実践できる環境にする。	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	総合的な満足度について一定の評価はいただいたが、以下項目の改善が必要。 【予習・復習の平均時間】 授業内だけで学びが完結していたので、予習復習を習慣づける作る仕組みが必要。 【授業の目的の明確さ】 【話し方や説明】 授業毎に用意したテキストに依存せず達成目標とわかりやすい説明の工夫が必要。 【教材や機器の使用などの工夫】 後ろの席から教室前方のスクリーンが見えないことがある、後ろに声が届きにくいとの声があった。	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	【予習・復習の平均時間】 課題やテストなどを増やし習慣的に学ぶ環境を準備する。 【授業の目的の明確さ】 【話し方や説明】 テキストに依存せず、達成目標・実例などを交えた、わかりやすく丁寧な説明に努める。 講師から生徒への一方通行にならないような話し方を工夫 【教材や機器の使用などの工夫】 前方スクリーンに映しながら操作をする際は後方席の生徒に理解できたか確認。また声については話す位置を考慮。マイクなども検討。	

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	幼 児 音 楽	
講義区分・開講期	演 習	前 期
担 当 者 名	江 端 深 雪	
PLAN 目標の設定 授業の方法 	<p>保育者として必要な音楽能力の育成を目的とし、ピアノ演奏技術習得を含めた総合的な音楽能力の伸長を図ることを目指している。</p> <p>授業方法としては、主に教科書とプリントを使用し、講義形式で保育活動に必要な音楽基礎理論を学習すると同時に、MLを使用して様々な実践形式を用いピアノ演奏技術習得を目標とする。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 	<p>講義・演習において、現在学んでいることが保育者にとってなぜ必要なのか、保育現場でどのように活かすことができるのかを可能な限り詳細に説明し、興味関心・目的意識を持ちながら、学びに対するモチベーションを保てるよう心がけた。</p> <p>音楽技能は、入学時点の能力に大きな差異があり一様な授業展開は難しい。まず導入として初心者が理解しやすい平易な内容から始め、無理なく理論から実践へとスムーズに繋がっていくよう配慮したが、音楽経験者にとっては平易過ぎる内容であったと思われ、対象学生に対しどのような方法で能力の伸長を図るのか工夫が必要である。</p> <p>MLについては、機材の関係から能力別に二分割で演習を行っていたが、自己学習等は実施していたものの時間ロスが否めず、学生数に対して十分な機器整備が望まれる。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート 	<p>I. 受講態度について 授業評価アンケートのなかでは昨年に引き続き「予習・復習の週平均時間」の項目が突出して低く、改善の努力はしたつもりであったが、結果として表れなかった。</p> <p>II. 授業内容について 概ね授業内容はシラバス通り実施でき、授業順序についても昨年の反省を活かすことができたように思う。受講者全員が「新しい知識や技能の習得」ができたと感じて貰えた事は(評価5)、授業実施者として非常に励みになる事でもあり、より良い授業を目指して変化し続けることは大切だと改めて考えさせられた。</p> <p>III. 授業の進め方について 必ず学生の理解度、質問の有無を確認しながら授業を進めるよう心がけていたつもりであるが「機材や機器の使用などの工夫」については落ち込みがあり、やはりMLの使用の仕方等の問題が顕著になったとも言えよう。</p>	
次年度に向けて	講義予定がないため、改善策・見直しは未記入。	

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	幼児美術	
講義区分・開講期	演 習	前 期
担当者名	神林 眞里	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	子どもの遊びを豊かにし、表現活動へのよき援助者、理解者となるよう、造形表現の基礎的知識と技法を子どもの遊びを想定しながら実践し修得。 教材研究実践から、表現の楽しさを味わい、自由な発想と創造力を育む。	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	●実践状況の振り返りや新たな課題設定のために、ポートフォリオを作成。●適切な導きができるよう、幼児造形視点からの発達段階を講義形式で理解し、年齢に合った指導方法や技術など演習実践を通して習得。●実技制作体験をしながら使用教材の特性を理解し、教材研究を行う。	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	子どもの遊びを想定しての造形活動基礎内容なので、保育者を目指す者として興味関心があり、表現することの楽しさを味わいながら学びの重要性を理解できたと考える。学習する姿勢は意欲的で繰り返すごとに効果が見え、達成感を味わっていた。時間内の実技演習を主としたが、過去美術選択をしていない学生が殆どで、取り組み方や道具の扱いに時間が掛り、完成までと振り返り復習に個人差が大きい。	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	到達目標はほぼ達成できている。しかしコロナ対策としてマスクを着用し会話制限や道具の使用制限があり、内面の開放や伝達は、昨年同様あまり感じる事ができない。次年度が状況改善されて自由に表現活動できることを期待する。また、実技演習の予習復習時間設定について、コロナ渦の実技にリモート設定や課題設定の難しさを感じ、予習復習時間の項目を講義の専門性に合わせ、見直し必要。	

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	子ども家庭支援の心理学	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	乳井 英雄	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ⇩	「子どもと家庭の抱える諸問題を理解できるようになることと、その支援の在り方についての事例などを基にして家族の心との関連性を理解すること」を目標として、講義および演習形式で授業を実施することとしている。	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ⇩	<p>授業到達目標を基にしたシラバスの授業計画に明記している1回目から15回目までの講義内容を実施し、同じく評価方法に明記した定期試験によって単位の認定を行うこととしていた。</p> <p>結果として授業計画通りの実施が遂行でき、単位認定については、再々試験までの間に受講者全員の単位認定が完了しており、到達目標を達成することができた。</p> <p>なお、定期試験による合格者は37名、再試験による合格者は2名で全学生に単位認定をしている。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ⇩	<p>アンケート結果では、設問領域「学生の受講態度」が平均値3.84、「授業内容について」が平均値4.67、「授業の進め方について」が平均値4.57、そして「総合評価」においては4.68という学生評価であった。</p> <p>設問領域の平均値はともかくとして、設問項目においては「学生自身の予習・復習の時間」が非常に少ないという学生本人の自己評価が多数存在している。</p> <p>また、前述以外の「授業内容や進め方」の各設問項目の中では「理解度を見ての授業展開」が4.53で最も低くなっている。今後、配慮・検討する必要がある。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	改善ポイントとして、学生に対する予習や復習の充実を検討しなければならない点と、「子ども家庭支援」など類似授業における講義内容の共通理解と学生対応を工夫しなければならない点を挙げておく。	

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	こどもの保健	
講義区分・開講期	○講義 ・ 演習	○前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	山 田 陽 子	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ⇓	こどもの保健は発達の標準を知り、疾病、異常などへ繋がる要素を持っている。心身の健やかな成長は基礎的内容を知ることから始まる。 出来るだけ語意や数値を覚える必要がある。 2年生の合同授業であり、講義中心となる。	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ⇓	教本は決めているが、できるだけプリント、レポートでの個別演習を取り入れ、積極的に授業に参加するようにしていた。プリント、レポートは個人提出とし、評価の部分配点とした。そのことにより内容、期日とも守られた。6月に保育園実習が中間にあったので、より現場での学びが教科内容に役立った。実習後のレポート課題は有意義であった。	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート	教本と共に板書やプリントを行っているが、教本を準備していない学生が若干いた。 合同の講義なので気持ちのない学生もいた。 成績評価はレポート配点40点と試験配点60点とした。レポートの基礎点があるので、全体的な平均点は高い 学生のアンケートを見ると、3予習・復習の週平均時間の項目の点数が低かった。	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	今年度は特別支障があった点はない。	

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	セラピー概論	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	阿部 千春	
PLAN 目標の設定 授業の方法 □	<p>カウンセリング心理学におけるさまざまな援助方法の理論と実際を学び、それぞれの理論・技法を実際の保育・幼児教育の現場でどのように役立てられるかについて検討することを目的とする。カウンセリング心理学におけるさまざまな援助方法の理論や技法についての基礎的な知識を習得することをめざし、後期に実施する教育カウンセラー補の試験に繋げる。</p> <p>教科書と講義資料を用い、講義を行った後で、演習（ペアワークやグループワークなど）を行う。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となる。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 □	<p>本講義では、カウンセリングの理論と技法を学び、保育・教育の現場にどのように生かしていけるかを検討しながら授業を進めた。授業の後半には毎回演習形式を取り入れた。また、学生たちのアセスメントする力を高めるために、また、学習した理論的な背景をもとに、子どもへの対応の仕方を具体的に考えられるようにするために、多くの事例を提示しながら授業を進めた。</p> <p>自ら選択したコースということもあり、授業の回数を重ねることで徐々に自分の思いや考えを言葉や文章で表現したり、グループワークやペアワークで積極的に取り組んだり、さらに学びを深めていこうとする姿勢につながってきた。また、仲間を尊重し、他者から学ぶ姿勢も育ってきている。</p> <p>授業後に記入した感想からは、子ども理解や対応の仕方、学生自身の自己理解、就職に向けてじっくり考える機会となったようである。3名という少人数の授業であったため、抱えていた疑問や質問などそれぞれのニーズに適切に対応できたといえる。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート □	<p>授業の目的も明確に伝わっていたといえ（評価 5.00）、配付資料やDVD等の視聴覚教材についても学生にとっては理解の助けになったようである（評価 5.00）。</p> <p>今年度も少人数での授業となり、疑問に思ったことをその都度確認しやすい雰囲気であったため、それが評価にもつながったといえる（「意見や質問の出しやすさ」5.00）。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>○学びのエンゲージメントにつながる学習内容の整理・精選について継続していきたい。</p> <p>○学習内容を素早く理解する学生とゆっくりと時間をかけて理解するタイプの学生がいる少人数の授業であったため、今後、両者がある程度満足するように、細やかな配慮が必要と考えられる。</p> <p>○教材や機器の利用についての評価は高かったが（5.00）、実践力を高められるように今後も工夫していきたい。</p>	

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	社会福祉	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	渡谷能孝	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	<p>学生個々が社会福祉の制度等に関する知識への理解を深め、現代社会における福祉課題について向き合い、考えることで、保育者としての資質向上を図ることをねらいとした。</p> <p>教科書やスライド等を用いた講義形式で授業を行い、社会福祉の流れや社会保障制度についての理解と、保育にかかわる福祉課題などについて考えた。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	<p>社会福祉の歴史から現代社会における福祉課題まで、幅広く授業を展開していく中、特に今後の生活の中でも大きくかかわる社会保障に関して、年金保険、医療保険、生活保護については、現状の理解と今後の課題を明確にした授業内容を展開した。</p> <p>5コマ目以降の講義については、各コマで福祉課題となる内容を講義の中に取り入れたことから、現代社会における福祉課題について、どのように取り組んでいくべきか考えるきっかけになったと思われる。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	<p>授業評価アンケートからは、予習、復習への取り組み時間が少ないことから、予習についてはもっと具体的な取り組みができる仕組みづくりを考えていく必要があると感じた。</p> <p>総合的な評価としては高く、講義内容を常にアップデートし、継続した形で実践できると良いのではないかと考える。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>具体的な予習内容の提示。</p> <p>社会福祉関連の最新情報を講義にしっかりと落とし込むことで、新しい知識を持って現代社会と向き合える力をつける。</p>	

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	教育心理学	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	藤村 敦	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	<p>昨年度に続き、子どもの発達や学びについての代表的な理論についての理解を目標の中心に据え、その理解が進むよう実際の保育現場で想定される事例に理論を当てはめて考えることのできる演習を計画した。また、演習の振り返りを毎回の講義で行うことで定着を図るようにした。さらに、昨年度の反省を基に、予習しやすい教科書を新しく選定し、毎回の学習箇所が分かるよう初回の講義で予習すべきページが分かる一覧表の配布を行った。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	<p>講義で学ぶ各種理論が、実際の保育現場ではどのように活用されるのかについて理解しやすいよう、各講義の最後の部分で演習を取り入れ、自ら考える時間を30分程度設けた。また、行った演習について、次の講義の冒頭でフィードバックを行った。また理論の理解について自ら確認できるよう、計2回の小テストを行い、理解の度合いについてフィードバックを図った。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	<p>アンケートの結果、総合的な満足度は4.92/5.00であり、昨年度の4.50/5.00から大幅に改善した。授業内容については平均4.93/5.00、授業の進め方については平均4.93/5.00という数値であった。このことから、講義中に設けられた演習やそのフィードバック2回の小テスト及びそのフィードバックは適切であったと考えられる。</p> <p>予習・復習の週平均時間についてはこれまで同様、課題としてあげられるが、前回より改善が見られたことから、教科書の選定などの計画は適切であったと考えられる。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>予習・復習時間が少ないという課題については、教科書の新たな選定、及び予習箇所をまとめた一覧表の配布などの手立てにより、改善は見られたものの、昨年と同様の傾向である。今後も、学習方法に関する分かりやすい指導に努めていく必要がある。</p>	

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	健康とスポーツ	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	池田 隼	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ⇓	運動への意欲を高め、生涯にわたり積極的に運動に関わる資質を高めることを目的として演習を行う。（シラバスより抜粋）	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ⇓	実技形式で行う。また、バレーボールやフットサル、バスケットボールといった球技スポーツの特性を踏まえグループを形成し演習を進める。（シラバスより抜粋）	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ⇓	<p>この科目については、学生になかまと一緒に身体を動かすことの楽しさを知ってもらうために授業を計画し、学生の反応（様子）を観察しながら進めていった。この科目では、スポーツが好きではない学生から身体を動かすことが好きな学生に対し、基本的なことから少し専門的な技術まで幅広く授業を展開した。また、限られたスペースの中で新型コロナウイルス感染症対策も十分に実施した上で可能な限り学生間で意見交換できる場面も作った。</p> <p>しかし、アンケート項目（3）の予習・復習の週平均時間は最も低い値を示していた。その他、記述項目では楽しいと感じる学生が見受けられた一方で、グループ編成についてもっと自由に実施して欲しいという内容もあった。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	アンケート項目（3）の予習・復習の週平均時間を十分に確保させるためには、授業後に様々なスポーツの歴史やルール等に関連する課題を与えることや定期的にレポート課題を出すことも検討する必要がある。また、実技時のグループ編成に関してもう少し自由に自分たちで決めたいという記載内容もあったため、目的に応じてグループ編成についても検討することを考えたい。しかし、授業として様々な学生と一緒にスポーツを楽しむということも学生に伝えつつ、次年度の授業で改善していきたい。	




令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	人間学 1	
講義区分・開講期	(講義) ・ 演習	(前期) ・ 後期 ・ 通年
担当者名	福島 重	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	<p>本講座は、「自分自身を見つめることができる洞察力・考察力を身に着けること」を目標に据え、受講生の理解度を見ながら、アクティブラーニングの形をとって授業を進めた。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	<p>シンプルかつ一貫した目標である「洞察力・考察力の向上」に向けて、授業では、仏教における根本的な苦しみである「生老病死」を念頭に置きつつ、学生が生活するうえで生じてくる様々な問題について取り組み、学習した。毎時間、前半は講義、後半は、いわゆる「シンク・ペア・シェア」方式を用い、教員が課したテーマについて学生たちが考察・発表し、教員がそれをまとめる形を採った。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	<p>授業評価アンケートでは、ほとんどの項目で4以上のポイントを得ている。その点では、授業がねらい通りに進められ、学生も想定通りの理解をしたと自己評価している。</p> <p>本講座は、講義スタイルとして、学生に対し明確な形で「予習・復習」は求めている。アンケートの「予習・復習」の項目だけが低評価なのは、そこに理由がある。ただし、講座が「人間」というものに着目する以上、授業中に課せられる課題自体が学生の日常に密接に関わるため、学業として割り切れない部分がある。なかには、前の週の授業中に出した課題を、1週間生活するなかでもう一度考え直してくる学生もいる。その点では、アンケート評価に現れない形ではあるが、本授業の効果が一定程度、学生に出ているのではないかと考えている。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>本講座が目指すところは、授業で培った「洞察力・考察力」を、授業外でも活用してもらうことにある。そのため授業で教授するのは、「知識」ではなく「物事の考え方」が核になる。</p> <p>ここ数年は、コロナ禍ということもあり、学生とのコミュニケーションが上手く取れなかったが、今年度は、比較的順調に進めることができた。次年度以降も、学生との対話を通して、より効果的な授業を目指したいと思う。</p>	

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	日本国憲法	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	伊藤 泰	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	日本国憲法の内容について知り，特に人権についての知識を深めることを目的として，具体的な事例を交えつつ授業を行う。 授業の方法については，講義形式で行う。	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	日本国憲法，特に人権についての知識を深めるという目標を達成すべく，日常生活に見られる人権にかかわる問題を具体的な事例に挙げて説明し，さらに質問を多用した双方向形式の授業を行った。	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	質問項目9「教員の話し方や説明の仕方」についての数値が4.71，質問項目11「意見や質問の出しやすさへの配慮」についての数値が4.77，さらに質問項目13「総合的な満足度」についての数値が4.69となるなど，全体として授業評価アンケートにおける評価は高く，しかもこれらはいずれも昨年度アンケートにおける評価よりも高かった。このことから，本講義において掲げた目標は概ね達成されたものと考えられる。	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	本年度に掲げた目標がさらなる達成を見るよう，次年度も引き続き努力する方針である。	




令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	基礎国語	
講義区分・開講期	(講義) ・ 演習	(前期) ・ 後期 ・ 通年
担当者名	西川司	
PLAN 目標の設定 授業の方法 	<p>「正しく、正確に、わかりやすい文章、話し方、聞き取ることができるようになる」というのが、目標です。</p> <p>そのための授業の方法としては、授業の中で、わかりにくい文章を例題として出し、それをその場で、わかりやすい文章に直して見るということを繰り返します。</p> <p>また、私の説明の仕方が、「序・破・急」という生徒たちに伝わりやすい話し方になっているかどうかを生徒たちに評価させます。</p> <p>さらには、私の講義をどこまできちんと聞き取ることができるかをレポートにまとめさせます。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 	<p>「基礎国語」という国語の授業をはじめの前に、偉人や企業成功者、哲学者などが残している「心に響く言葉」を紹介しています。そうすることによって、「人としての生き方」を生徒たちに考えるきっかけにしたい思い実践しています。</p> <p>授業の中心は、私が例題を出し、授業中に生徒たちに考えさせ、答えを書かせるということを実践しています。</p> <p>そうすることによって、瞬時に考えるという癖をつけさせ、即答させることで、文章力をつけ、なおかつ読解力を身に着けさせることができると考えています。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート 	<p>私の自己点検・評価は、おおよそ満足しています。</p> <p>それは授業評価を見てもわかるとおり、おおよその項目について、「予習・復習の週平均時間」の「1.29」と「到達目標の達成」の「2.66」以外は、最高点である「4」近い「3以上」が大多数であるからです。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>「到達目標の達成」が「2.66」というのがとても残念です。</p> <p>その原因はどこあるのかを考えた場合、「予習」よりも「復習」に重きを置いたほうがいだろうとの考えに至り、次年度ではその方向で見直しをしようと考えています。</p>	

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	乳児保育 I	
講義区分・開講期	(講義) ・ 演習	(前期) ・ 後期 ・ 通年
担当者名	石山真由美	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	法律や3歳未満児の発育・発達について学べるようテキストを参考に授業計画を立て、講義形式で授業を行った。	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	テキストを中心に学生が理解しやすいように実際の保育現場の事例を交えながら授業を行い、保育の現場で役立つ手遊びや絵本の読み聞かせ等も導入した。	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	授業で課題を出していたが、学生の負担にならないよう授業内で行うようにしたため、予習・復習の時間の点数が低くなっていると推測するが、総合的に満足度が得られていたと思う。	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	学生が総合的な満足度を得られるよう、話し方や説明の仕方に工夫をしながら授業を進めていきたいと思う。	

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	こどもの音楽と遊び	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	久藏 郁子	
PLAN 目標の設定 授業の方法 	<p>幼児音楽の知識を、日本の伝統文化（わらべうた）を中心に深め、音楽遊びを保育現場で活用できるように検討する。教職への意欲を高め、保育現場で多様な視点から音楽遊びの実践をすることができる。</p> <p>担当教員のオリジナルテキストを活用し、講義と実践を行う。また、学生個人及びグループで音楽遊びを展開し、相互の関係性の中で模擬授業を行う。オリジナルテキストを学生自身の「音楽遊びノート」としてまとめ提出することで、学びを記録し、今後活かせる資料とする。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 	<p>わらべうたを知らずに育ってきている学生に、遊びを通して保育現場で実践できるように、絵本や工作遊び、おもちゃや小道具を活用しながら、音楽遊びのイメージを多様な視点で膨らませる実践を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌って遊ぼうわらべうた①乳児の遊び歌[実践] 歌って遊ぶ。 ・歌って遊ぼうわらべうた②幼児の遊び歌[実践] 歌って遊ぶ。 ・わらべうたを導入する手作りおもちゃ（紙コップ・牛乳パック・折り紙）づくり [制作] 工夫をしながら小道具を作成する。 ・手作りおもちゃを使ったわらべうた [実践] 作った道具のおもちゃで歌を歌いながらゲーム形式で遊ぶ。 ・わらべうた絵本・わらべうた紙芝居 [実践] 提示した「わらべうたに関する絵本・紙芝居」の中から、一人一冊を選び読み聞かせをする。 ・わらべうた発表会①（指導案作成） [作成] わらべうた指導案を10分程度の内容で立案し、イメージを膨らませる。 ・わらべうた発表会②（発表）グループを作成し一人ずつ実践する。先生役・子ども役・観察役をローテーションで体験する。 ・まとめ・振り返り「音楽遊びノート」 [作成・提出] [添削・返却] までを行う。 	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート 	<p>おおむね学生たちが授業を意欲的に取り組み、興味関心を示した結果となった。集中講義だったため、予習復習の部分は「音楽遊びノート」の整理時間に当てたつもりであったが、説明が足りなかったと感じた。</p> <p>7. 学習成果の到達目標に対する新しい知識や技能の習得の評価が高かったのは、わらべうたへの知識や技能の習得が得られた結果と受け止めた。しかし、10. 学生の理解度等を見ての授業展開の評価が低かった点については、わらべうたが難しいと感じる学生に対しての配慮が足りなかったと考える。説明や理解を深める方法を検討する必要があると感じた。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>わらべうたを歌う時間、覚える時間を確保する。</p> <p>集中講義では、保育現場での実践に重点を置き授業を展開したが、初めて耳にするわらべうたが多く、音程の難しさ、うた絵本の難しさを示す学生がいたため、わらべうたは楽譜の事前配布等を通して覚えらえる環境を提示することを検討したい。</p>	